



# 信玄公 ゆかりの地 を訪ねて

平山 優先生 監修

山梨県内各地に残る  
信玄公の足跡  
著名なものから知られざる場所まで  
山梨県内には、信玄公ゆかりの地が  
数多くあります。

信玄公が  
生まれた山城



## 1 要害山 (甲府市)

信玄公の父、信虎が躑躅ヶ崎館の詰城として築城した山城。大永元年(1521年)10月、今川軍が甲斐に侵攻した際、信虎は臨月であった大井夫人を要害山城に避難させ、11月3日に信玄公がこの城で産まれたと伝わる。

信玄公産湯の  
井戸が残る



## 2 積翠寺 (甲府市)

行基が開創したとされ、境内の巨石から水が噴き出したことから、古くは石水寺と称した。信玄公は積翠寺で誕生したとの伝承もあり、産湯の井戸が残る。

武田の館跡に創建



## 3 武田神社 (甲府市)

永正16年(1519年)、信虎はこの地、躑躅ヶ崎に館を築き「甲斐府中」を定める。これより60余年、信虎・信玄・勝頼の居館となる。武田神社は大正8年(1919年)、館跡に創建された。

信玄公の  
防水林がはじまり



9 万力公園 (山梨市)

笛吹川の氾濫が度重なる水難所であったため、信玄公が治水事業の一環として赤松を植えさせたと伝わる。後に築かれた雁行堤は信玄公の治水技術を基に考えられたとされ、今も石積みの一部が残る。

墓所に咲く「八房梅」



4 武田信玄公墓所 (甲府市)

信濃国で死去した信玄公は、この墓所のある武田二十四将の一人である土屋右衛門尉昌次の邸内で荼毘に付された。墓所内の「八房梅」は一つの花に8個の美を結ぶ珍しいもの。川中島合戦の陣中で信玄公がこの実で喉をうるおしたと伝えられる。

学問を奨励する  
壁書が残る



10 向嶽寺 (甲州市)

信玄公が僧侶の修行を励ますために記した壁書が残る。五箇条からなり、執務上の守るべきを示し学問に励み、禅道の修行に精進すべきことが記してある。信玄公27歳のときの書とされる。

信州善光寺より  
本尊を移した



5 甲斐善光寺 (甲府市)

川中島の戦いが激化し、信州の善光寺の焼失を恐れた信玄公が、本尊をはじめ、諸仏、寺宝を甲府善光寺に移した。僧侶、職人、商人も伴い一つの門前町が移動したと伝えられる。後に本尊は豊臣秀吉により帰還。

11 恵林寺 (甲州市)

開山は夢窓国師。信玄公は名僧快川国師を迎え、深く帰依。信玄公自ら恵林寺を菩提寺と定めていたため、3年間の秘喪の後、天正4年(1576年)4月に信玄公の子、勝頼が施主となって本葬が執行された。武田家滅亡後、織田軍により国師と僧侶100余名が山門楼上に追われ火を放たれたが国師は恐れることなく「心頭滅却すれば火も自ら涼し」と言い放った。夢窓国師の庭が有名。

信玄公の菩提寺



6 八田家書院 (笛吹市)

八田家は武田家の蔵前衆として、年貢の収納、軍糧の輸送を司どっていた。茅葺き入母屋造りの書院は美しい庭園の中にあり、紅葉に染まる秋は格別な趣がある。県指定文化財の八田家書院と八田家御朱印屋敷が隣接している。

武田家の蔵前衆



7 一宮浅間神社 (笛吹市)

後奈良天皇より武田家を通じて奉納された、国指定重要文化財の後奈良天皇書写の紺紙金泥般若心経をはじめ、太刀や信玄公自詠の和歌の短冊など、信玄公ゆかりの文化財が数多く残る。

信玄公から厚い  
崇敬を受けた



武田の隠し金山



12 丹波山金山 (丹波山村)

室町時代には集落が形成されていた古い歴史を持つ丹波山村は、武田氏全盛期には武田の隠し金山として栄えた。黒川金山の採掘のため金山奉行が置かれるなど、丹波千軒と呼ばれ賑わった。

武田家代々の氏神



関東方面への  
要衝の地



13 小菅城跡 (小菅村)

武田信昌により、武州(旧武蔵国)と接する要所として配された小菅氏が天神山に築いた山城。当時、日常は麓に館を構え、山城は非常時に立て籠もる砦だった。山には今も当時の痕跡がある。

8 大井俣窪八幡神社 (山梨市)

本殿は、現存する国内最大の十一間社流造。建造物9棟11件が国指定重要文化財に指定されている。神社本紀には、弘治3年(1557年)に晴信(信玄公)が信州出陣の際、配下に命じて扉に金箔を再興させたと記されている。

重要文化財の三神像が残る

忍草浅間神社 (忍野村)

大同2年(807年)創建。木花咲耶姫命・鷹飼・犬飼坐像の三神像は国指定重要文化財。浅間神社の中に諏訪明神が祀られるようになったのは、信玄公の影響によるものという説がある。



武田軍の通信設備

城山の狼煙台 (西桂町)

狼煙台は、国防警備のため軍事情報の連絡手段として甲斐国の各地に置かれた。武田氏の地下衆が交代で常駐していたとされる。城山には帯曲輪跡や尾根切りなどの烽火の遺構が残されている。



信玄公が造営した東宮本殿

北口本宮富士浅間神社 (富士吉田市)

日本武尊が富士の遥拝地として定めたことが起源とされ、1900年以上の歴史を誇る。信玄公が川中島合戦の戦勝を祈願して浅間本社として造営した東宮本殿など、多くの建造物が国の重要文化財に指定されている。

武田家三代に渡り崇敬



富士御室浅間神社 (富士河口湖町)

信虎・信玄・勝頼から崇敬を受けた。武田家の祈願所であり、北条氏政に嫁いだ息女黄梅院の安産を願って捧げた信玄直筆の安産祈願文や古文書、武田不動明王像などが所蔵されている。

武運長久を祈願



魔王天神社 (鳴沢村)

本殿はなく拜殿だけの古代神社の形式。おびただしい刀剣が奉納されている。かつては武運長久を祈願する参拝者も訪れたという。「風の神」「抱瘡神」「小御岳本宮」が祀られている。

小説「大菩薩峠」にも登場

保福寺 (上野原市)

武田家の重臣で上野原城主の加藤丹後守景忠が創建。景忠の父、虎景は信玄公の旗本奉行で、武術指南役を務めた。慶応元年(1865年)に再建された山門と鐘樓の豪華な造りも見応えがある。別名月見寺とも言われ、中里介山の「大菩薩峠」にも登場している。



関東三名城のひとつ

岩殿城跡 (大月市)

郡内領主小山田氏によって築かれた城。「甲陽軍鑑」に、上野国岩櫃城、駿河国久能山城と並んで、関東三名城に数えられている。織田軍に攻められた勝頼が最後に目指した山城だったが、小山田茂茂に拒まれ、勝頼は天目山へ向かい自刃することになる。



小山田氏の歴史をひもとく



長生寺 (都留市)

文明元年(1469年)甲斐国守護武田信昌が鷹岳宗俊禅師を招き開山。信虎らと活躍した小山田出羽守信有が、永正9年(1512年)に再興、以後、小山田家の歴代菩提寺となる。

小田原攻めの軍路



犬越路峠 (道志村)

信玄公が小田原城主北条氏康を攻める際、道志を通り、犬に先導させて峠を越えたことに由来してその名がついたという説がある。近くには陣を張ったとされる信玄平など、信玄公に由来する地名が点在している。

国境守備の祈願所



寿徳寺 (山中湖村)

駿河と相模の国境にあたることから、信玄公はこの地を国境守備の祈願所とした。狩野常信作といわれる涅槃図、明兆作といわれる星曼荼羅、武田家印刷判などの文化財がある。

信玄公生母  
大井夫人の菩提寺



30 古長禅寺 《南アルプス市》

創建時は長禅寺であったが、信玄公により甲府に新たに長禅寺が創建され、古長禅寺となる。大井夫人は住職に高僧岐秀玄伯を招き、信玄公の師とした。岐秀は信玄公の出家時に「信玄」の号を与えた。

駿河侵攻の戦勝祈願



24 最恩寺 《南部町》

武田氏の一族、穴山氏により伽藍が整備された。駿河侵攻の際は、信玄公が戦勝祈願を行い、寺領を寄進したと伝えられている。仏殿は国指定重要文化財。境内に穴山勝千代(梅雪の子)の墓所がある。

甲斐源氏発展の礎



31 義清塚 《昭和町》

源義清は武田冠者を名乗り、甲斐国に源氏の勢力を築いた。義清の没後に館内に社殿を造営したとされる義清神社の西には義清の墳墓といわれる義清塚がある。境内には甲斐源氏祖御日跡の碑もある。

信玄公の姉、  
南松院の菩提所



25 南松院 《身延町》

穴山信君が亡き母南松院のために菩提所として再建。南松院は信玄公の姉にあたる。庭園の亀石は南松院が穴山信友に嫁ぐ際に持参した武田家伝来の霊亀石だと伝えられている。

信玄公生誕年の  
合戦の碑



32 飯田河原合戦供養碑 《甲斐市》

大永元年(1521年)信虎が今川軍を迎え撃ち、劇的勝利を取めた飯田河原合戦。合戦場近くの八幡神社にある碑は戦死者の供養のために信虎が建立したと伝えられ、大永6年(1526年)9月の文字が確認できる。

信玄公の隠し金山



26 保金山跡(大金不動滝) 《早川町》

保金山は大金山金山とも呼ばれる武田氏の時代の隠し金山。大金不動滝の上にくつもの坑道があり、この滝の水を金の精錬に使っていた。滝の岩の割れ目に金がつままっていると言われている。

戦勝祈願・武田家の氏神



33 武田八幡宮 《韮崎市》

武田家発祥の地にある氏神。石鳥居は室町時代、現存する本殿は信玄公が建立したと伝わる国指定重要文化財。武田家滅亡の直前、勝頼の正室・北条夫人が「願わくば霊神力を合わせて勝つことを」と願文を納めた。

27 本能寺 虎王丸墓 《富士川町》

信虎の三女で信玄公の妹にあたる禰禰と信濃の武將諏訪頼重との間に生まれた虎王丸の墓。信玄公暗殺に失敗して逃亡したが、この地で果てた。五輪塔が本能寺裏山に残る。

信虎三女の一子  
虎王丸の墓



28 上野城跡 《市川三郷町》

城主一条信龍は信虎の八男。信玄公が甲斐源氏一門の名族一条氏の名跡が絶えぬよう、異母弟の信龍に一条家の名跡を継がせた。信龍は、信玄公からの信頼も厚い名将であり武田二十四将の一人。現在、城の皇跡は蹴裂神社となっている。

信玄公の重鎮  
信龍の皇城



34 信玄棒道 《北杜市》

甲斐と信濃を結ぶ最短の軍用道路。八ヶ岳山麓を直線に貫き、「棒道」と呼ばれている。道中には関所、番所が設けられ往来する兵や馬の世話をする施設が整えられていた。大河ドラマのロケにもよく使われている。

信玄公の軍用道路



29 浅利与一墓所 《中央市》

弓の名人として知られる甲斐源氏の武將、浅利与一義成。『平家物語』には、壇ノ浦の戦いで平家の武將を400メートル以上先から射倒したことが記されている。後の子孫とされる浅利信種は、信玄公の側近として三増峠の戦いで戦死。

遠矢の譽れを  
天下に響かせた

